

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 25 年 9 月 12 日 (2013.9.12)

【公表番号】特表 2013-501086 (P2013-501086A)

【公表日】平成 25 年 1 月 10 日 (2013.1.10)

【年通号数】公開・登録公報 2013-002

【出願番号】特願 2012-522229 (P2012-522229)

【国際特許分類】

C 08 G 63/87 (2006.01)

【FI】

C 08 G 63/87

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 7 月 26 日 (2013.7.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

(i) カルボン酸官能基を少なくとも 2 個有する化合物、カルボン酸エステル官能基を少なくとも 2 個有する化合物、カルボン酸官能基を少なくとも 1 個有し且つヒドロキシル官能基を少なくとも 1 個有する化合物、及びカルボン酸エステル官能基を少なくとも 1 個有し且つヒドロキシル官能基を少なくとも 1 個有する化合物から選択される少なくとも 1 種の第 1 のモノマー若しくはオリゴマーと、ヒドロキシル官能基を少なくとも 2 個有する化合物から選択される少なくとも 1 種の第 2 のモノマー若しくはオリゴマーとの間のポリエステル化反応によって、又は

(ii) カルボン酸官能基を少なくとも 1 個有し且つヒドロキシル官能基を少なくとも 1 個有する化合物、及びカルボン酸エステル官能基を少なくとも 1 個有し且つヒドロキシル官能基を少なくとも 1 個有する化合物から選択される単一のモノマー若しくはオリゴマーのポリエステル化反応によって、

立体排除クロマトグラフィーにより測定される質量平均分子量 M_w が 10000 超であるポリエステル又はコポリエステルを合成するための方法であって、

前記ポリエステル化反応を金属触媒を含まない反応媒体中で大気圧又は真空下で 60 ~ 150 の温度において実施し、前記反応媒体が、電荷が平衡にあるアニオン及びカチオンから構成される少なくとも 1 種の酸性イオン性液体を含み、少なくとも前記カチオンがブレンステッドの意味における強酸であるか又はブレンステッドの意味における強酸である基を含むかのいずれかであることを特徴とする、前記方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

従って、本発明の 1 つの主題は、立体排除クロマトグラフィーにより測定される質量平均分子量 M_w が 10000 超であるポリエステル又はコポリエステルを、

(i) カルボン酸官能基を少なくとも 2 個有する化合物、カルボン酸エステル官能基を少なくとも 2 個有する化合物、カルボン酸官能基を少なくとも 1 個有し且つヒドロキシル官能基を少なくとも 1 個有する化合物、及びカルボン酸エステル官能基を少なくとも 1 個有

し且つヒドロキシル官能基を少なくとも 1 個有する化合物から選択される少なくとも 1 種の第 1 のモノマー若しくはオリゴマーと、ヒドロキシル官能基を少なくとも 2 個有する化合物から選択される少なくとも 1 種の第 2 のモノマー若しくはオリゴマーとの間のポリエステル化反応によって、又は

(ii) カルボン酸官能基を少なくとも 1 個有し且つヒドロキシル官能基を少なくとも 1 個有する化合物、及びカルボン酸エステル官能基を少なくとも 1 個有し且つヒドロキシル官能基を少なくとも 1 個有する化合物から選択される単一のモノマー若しくはオリゴマーのポリエステル化反応によって、
合成する方法であって、

前記ポリエステル化反応が金属触媒を含まない反応媒体中で大気圧又は真空下で 60 ~ 150 の温度において実施され、前記反応媒体が、電荷が平衡にあるアニオン及びカチオンから成る少なくとも 1 種の酸性イオン性液体を含み、少なくとも前記カチオンがブレンステッドの意味における強酸であるか又はブレンステッドの意味における強酸である基を含むかのいずれかであることを特徴とする、前記方法にある。